

宏はこう考える

☆印南 宏の提言(抜粋)

■会派と印南宏の提言概要■

印南の属する「あびこ21」の代表質問では、『子ども達を放射能から守る!』というスタンスから、(一)子どもたちにかかわる施設の除染、(二)放射能の諸課題に対する我孫子市の取り組み、(三)関係機関への要請(手賀沼流域下水道終末処理場他)を提言しました。

印南の個人質問では、(一)交通行政として①成田線利便化への道(新たな戦術の必要性)、②新木駅舎の改造事業、③市内踏切の安全対策を、(二)教育行政として、根戸小の大規模校対策・布佐南小の小規模特任校制度の導入などを提言しました。

■成田線の利便化■

急がば回れ!新戦術提起!

我孫子市のアクセス問題である「成田線の利便化問題」は暗礁に乗り上げています。成田線活性化推進協議会でJR東日本に提案していたこれまでの増発案は、増発に関わるJR諸費用を沿線自治体で負担し、その費用を沿線開発による定住人口の増加に伴う税収増で将来的に回収するという案です。しかし、黒字民間企業であるJR東日本が沿線自治体の負担を得ることへの社会的批判や、将来的なダイヤ編成への縛りを受け、JR東日本側の増発増点から、JR東日本側への増発増

便に向けた要求戦術としては、JR東日本側としても受け入れにくいことが判明してきました。加えて、増発増便で定住人口が増加すると、沿線自治体の厳しい財政状況をかえって悪化させる可能性も否定できません。増便増発の要望要請は継続するにしても、遠回りに見えます。沿線自治体が一丸となって成田線沿線の魅力を高め、若い世代を含めた定住人口を増加させていくことが利便化への近道・王道なのではないかと私は思いなしております。その観点から、私は、沿線地域の「住宅リフォーム助成制度の拡充」や「空き店舗活用による事業支援策」というソフト支援策と、「大学の南北交流道路の早期整備」「踏切の安全対策」などのハード面の施策を提起しています。事実として成田線の平均乗車人員は一日平均で一万人以上減少(平成五年度比)しています。いざこれにせよ、沿線自治体が協力して攻めの諸施策を取り組んでいくことが、急務となっております。

■小中学校適正配置に向けて

執行部に反省を促す

我孫子駅北側地区児童・生徒数の急増と、布佐地域を含む市東部地区の児童・生徒数の減少傾向が顕著となっております。現在、教育委員会により、我孫子小中学校適正配置検討委員会

を設置され、今年七月の第四回審議会諮問案のたたき台が出来上がりました。私は、教育行政の立場から、根戸小学校の大規模校対策(福祉施設に転用した財産の返還や特別教室のリフォームと、学童保育施設の新設置)の提起や、布佐南小学校の小規模特任校制度の導入の提起をしました。ただ、この中で強く感じたのは、教育のあり方を踏まえた街づくりを念頭に置くべきだということです。特に我孫子地域では、教育委員会と市の開発関連部署との連携、そして開発業者との折衝など、先を見据えた街づくりの必要性について市の執行部に反省すべき点があるのではないかと分析し、執行部に対して反省を促し、今後の課題とすべしことを訴えました。

■放射線量低減策を実施する

ための当面の基準が発表

九月十二日、我孫子市は放射線の低減策として当面の基準を市議会に提示しました。既に、我孫子市では、学校や公園などの年間積算放射線量一ミリシーベルト以下をめざすとしており、今回、具体的な「当面の放射線低減策を実施する目安」を発表しました。

これらの取り組みは、私どもが求めてきた対策に対して前進が図られたものと考えています

■県内初の私立幼稚園児「預かり保育」半額助成制度

市内の私立幼稚園十園に通う園児の保護者を対象に、幼稚園児の間の「預かり保育」を利用した場合、保育料を半額助成する制度が十月からスタートしました。今後とも「待機児童ゼロ」を維持するため、導入を自治体が保護者に直接保育料を助成するのは千葉県内初の制度となります。

■県内初の委員会インターネット中継と録画公開!

本会議でのインターネット中継に加えて、九月議会から委員会の開始も録画公開まで実施する。この改革は、私の議員生活の中で最大の長年のテーマです。

「あひこ」と「宏」の「あひこ」ックス



平和台雑感

「暑さ寒さも彼岸まで」とは良
く言ったものだ。あの暑い日は
どこに行つたのか、季節は確実
に秋へと移行している。秋と言
えば秋祭。今年のお祭りの関係
社のお祭りは大震災の関係で中
となつた。お祭り好きの私にと
つて、とても残念でならない。
布佐地区ではお祭りに代えて、
先日九月十八日、布佐復興バザ
ール「布佐フェスタ」が開催さ
れた。私も含め、大勢の皆さん
が秋の一日をフェスタで楽しん
だ。まさに「人生は時間の長さ
ではなく、思い出の数」。大切な
時間の流れを感じつつ、貴重な
秋の一日を堪能した。◆十月七
日、快晴の下、布佐ポンプ場築
造工事の起工式が執り行われ
布佐地区で頻繁に発生する浸水
被害を解消するため、内水(川
の堤防を境に宅地や農地側にあ
る水)を排除する大型雨水ポン
プ場である。布佐地区は全体的
に地盤が低く、かんがい期農作
物の生育に必要な水を供給する
時期、四月(八月)には自然排水
による内水排除が困難となり、
市街地で浸水が多発している。
浸水対策の切り札として内水の
強制排水施設である布佐ポンプ
場を築造する。排水区域は約二
〇八ヘクタール、排水量は約二
水能力の約十二倍と強化される。
九月議会で工事請負契約を完了
了す予定である。三月末で工事が
来すための地の面的整備がこれ
に流すための面的整備がこれか

ら重要になる。総事業費は二十
五億(三十億円)になると推察さ
れる。水害をなくすための第一
歩がスタートした。◆布佐平和
台の現在の平均年齢は五十六歳
と、高齢化が急速に進んでいる。
我孫子市の高齢化の特徴は第一
に、その急速さにある。平成三
十四年には三十パーセント、全
国平均より二年近く早い到達に
なる。第二の特徴は開発区域ご
との高齢化のバラツキである。開
発時期により大きな差異があり
例えば、新木野二丁目では四十
五パーセント、南青山では六十
パーセントである。高齢化に伴い、
要介護状態への不安、独居高齢
者への不安(孤独死)、認知症へ
の不安などが寄せられる。
その不安が東日本大震災などの自
然災害への不安が重なる。災害
の被害を最小限に食い止めるに
は、「自助」と「共助」の取り組
みが最も重要となつている。平
和台も十年もすれば六十五歳以
上の比率が五割を超える。防災
訓練や防災スタツプの充実が必
要になつていく。◆放射能問題
を心配する声が増し、携帯にも
ついて放射能問題についてメール
も毎
日、飛び込んでくる。先日「東
葛飾地区の子どもたちを放射能
汚染から守る会」我孫子意見交
換会」の会合に参加。さらに、
調査を求め、陳情書」も受け取
つた。今回の放射能問題では、取
放線量を測定と徹底した情報
公開を行うことは論をまたない。
その

上で、国や東電が行うべきこと
と区分しながら、我孫子市とし
ては、除染の計画策定と実施や
土壌の測定を行うとともに、農
産物や子供たちの給食食材の安
全対策など可能なことを最大限
行つていくことが重要である。
そのための、放射線対策委員
会の設置等は当然である。これ
らに加えて、放射線を心配する
市民とそうでない市民、放射線
量の高い地域とそうでない地域
との間で差別や区別に発展しな
いよう努めていく努力が必要に
なつていくと感じている。◆極
めて厳しい修業を果した僧侶
の話を伺つた。行者は山の行よ
り、里の行が大事という。修業
を通じて、生きるうえで何が大
切だと気づかされたのかと尋ね
られると、「感謝」と「反省」と
「思いやり」と答える。「感謝」
とは足るを知る心。今自分に与
えられていく環境をありがたく
思う心である。「反省」は日々、
自分を省みる心。夜、布団の
なかで、心ない言葉で相手を傷
つけていたか、など省み
る心は大事。そして、「思いやり」
は、「縁を大切にすること。一見、
易しいことに感じられるかもしれ
ないが、当たり前のことをおし
ろそかにすると人生もおろそか
になる。全ての原点は日常生活
にある。人と話す、ご飯を作る、
挨拶をする。日々の所作の一つ
一つに心を込めることが、実は
お話を沖繩・興南高校野球部、
我喜屋監督から聞いた。野球、

印南 宏後援会
〒270-1198 我孫子市日の出 1131
(日本電気労働組合我孫子支部内)
Tel 04-7184-2860
e-mail innami@mqd.biglobe.ne.jp
宏のホームページ(リニューアル)
http://www7b.biglobe.ne.jp/~innami-hiroshi/
宏のブログ(日々更新中!)
http://hiroshi4649.at.webry.info/

で勝つた。昨夏には「準備」が
である。準備で他を圧倒した。
最も重要なのは、意外にも「躰
である。と。だらう。野球には私
がかりとした。野球には私生活
手自身の暮らしが現れてくる。
日々の暮らしが監督の「躰」は
る。我喜屋監督の「躰」は日常
の気遣いや配りの「躰」は日常
いる。日常の野球の配りという
じる。日常の野球の配りという
感と協調性を育てる。その連帯
とに「考える力」が必要なので
「強い心」が理由がある。◆「本
気」が本気ですれば大抵のこと
が助けてくれる。◆「本気」が
お

新自由通路の整備も！

新木駅は市内JR駅で唯一(無人駅)である東我孫子駅を除く、エレベーターとエスカレーターが無く、南北を結ぶ通路のバリアフリー化が実現していません。そこで、新木駅を利用する住民の皆さんが中心となり、高齢化が進んでいく中で一刻も早く一人にやさしい駅として整備するため、活発な請願活動が行われてきました。その成果が実り、この10月初旬、市役所交通課から、南北エレベーター・エスカレーターの完成予想図が示された。これまでに、新たな自由通路・エレベーターを設置

速報 新木駅 駅舎改修

概要が示される！

するには北側斜線で影響する新木駅北側民有地を取得しなればならないが、今回の取捨選択がうまくいっても建築基準法上クリアする基本設計が前進につながりました。

住民の皆さんとともに更なる改善に努力！

印南は今日まで新木駅周辺のまちづくりとして新木駅の橋上化・南北エレベーター・エスカレーターの早期設置、南北自由通路と下新木踏切の安全対策等を積極的に議会や質問・提言をしてまいりました。今後は新木駅北口のアクセシブルな交流路の整備、確保、新木踏切の安全対策等市民の皆さんと一緒に進めてまいります。

概要



新木駅完成予想図・南側から望む

諸データ

鉄骨造 地上2階建

- ・建築面積：436㎡
- ・延べ床面積：494㎡
- ・最高高さ：10.1m
- ・自由通路及び階段の幅員：2.4m (現況と同じ)
- ・エスカレーターの幅員：1m
- ・エレベーターの規格：乗用人数11人 (車椅子対応)

整備期間：平成24年度～25年度 (予定)

基本設計の考え方

自由通路と駅南北口エレベーター・エスカレーターの早期実現化を図るために、民有地を取得しないで、建築基準法上支障ないように計画した。

また、現在の自由通路を使用しながら築造するため、新しい自由通路は現在の自由通路の湖北寄りになる。

